森下 一期　著作目録

以下の目録は、森下一期元助教授のほぼすべての著作を年月日順に示したものである。

1965 年

・「有機半導体のエレクトロルミネッセンス」（東京工業大学 卒業論文），1965 年 3 月

1969 年

・「男女共修“中学校技術科”の構想」『教科の研究』，学研書籍，1969 年 9 月，pp.18-20

1971 年

・「技術科教育について」『技術教育を考えるー和光学園研究委員会第 2 回教育ゼミナール』（和光学園），1971 年 1 月，pp.1-9
・「木材加工の授業　小学校 5 年」『技術教育を考えるー和光学園研究委員会第 3 回教育ゼミナール』1971 年 1 月，pp.10-14
・「製図の授業　中学校 1 年」『技術教育を考えるー和光学園研究委員会第 4 回教育ゼミナール』，1971 年 1 月，pp.15-21
・「技術科教育の基本的な考え」（森下提案）『技術教育を考えるー和光学園研究委員会第 5 回教育ゼミナール』，1971 年 1 月，pp.25-29
・「技術科教育の基本的な考えー同上提案をめぐって（向山，丸木，川上，布施，立岩，浜田，平林，秦葉，布川）」『技術教育を考えるー和光学園研究委員会第 6 回教育ゼミナール』，1971 年 1 月，pp.29-42
・「男女共学の“技術科”」『家庭科教育』第 45 巻 8 号，家政教育社，1971 年 7 月
・「“カンナ”で木をけずろう—小学校五年の木材加工—」『技術教育』第 228 号，国土社，1971 年 7 月，pp.7-13
・「製図学習の実践—第一角法，全ての画面に斜めとなる線分の投影—」『技術教育研究会会報』第 69 号，1971 年 11 月，pp.3-9

1972 年

・「＜実践と検討＞「金属加工の授業」（コメント）」『技術教育研究』創刊号，1972 年 1 月，pp.56-57
・「小学校 6 年“金属加工” —接合の授業—」『技術教育』第 238 号，国土社，1972 年 5 月，pp.21-26
・「小学校 6 年“金属加工”の実践」『技術教育研究』第 2 号，1972 年 7 月，pp.75-91

1973 年

・「小学校の工作教育—図画工作科・指導要領・教科書の検討—」『子どもの遊びと手の労働研究』第 3 号，1973 年 10 月，pp.1-17
・「カンナで木をけずろう—小学校 5 年生の授業—」『新しい技術教育の実践』, 国土社, 1973 年 10 月, pp.60-79
・「プレ・シンポジウム「労働と教育」「現代日本の民主教育における労働の意義」「手の労働の問題につい

て」」『技術教育研究会会報』第 84 号，　1973 年 12 月，pp.1-3

1974 年

・「子どもに道具をー小学 1 年生から切れるナイフを使わせようー」『技術教育』第 258 号，国土社，1974 年 1 月，pp.11-15
・（分担執筆）技術教育研究会編『製図（基礎編）』（自主編成テキスト），1974 年 4 月
・「子どもの手と頭と」『幼児開発』（幼児開発協会），1974 年 5 月，pp.78-82
・「手の労働の一つの体験」『技術教育研究』第 6 号，1974 年 5 月，pp.42-46
・「Ⅲ章　手の労働と道具」『子どもの遊びと手の労働』（手労研編），あすなろ書房，1974 年 7 月，pp.96-141
・「Ⅴ章　小学校での手の労働」『子どもの遊びと手の労働』（手労研編），あすなろ書房，1974 年 7 月，pp.190-198
・「Ⅴ章　小学校での手の労働」『子どもの遊びと手の労働』（手労研編），あすなろ書房，1974 年 7 月，pp.214-224
・「子どもの労働経験と教育」『教育』第 306 号，1974 年 9 月，pp.16-23
・「大工道具の産地を訪ねて」『子どもの遊びと手の労働研究』第 13 号，1974 年 9 月，pp.9-11
・「子どもに，遊びと手の労働を」『愛育』（母子愛育会），1974 年 10 月，pp.4-6
・「小学校『図画工作科』の施設・設備—教材基準の検討—」『子どもの遊びと手の労働研究』第 15 号，1974 年 11 月，pp.7-12
・「子どもといっしょに工作をしよう」『幼児開発』（幼児開発協会），1974 年 12 月，pp.40-47

1975 年

・「子どもにとっての手—遊ばない子，遊べない子」『愛育』（母子愛育会），1975 年 1 月，pp.8-12
・「工作の素材と道具」①『子どもの遊びと手の労働研究』第 21 号，1975 年 5 月，pp.9-13
・「できる子できない子の問題を考えるにあたって」『技術教育』第 274 号，1975 年 5 月，pp.6-9
・「子どもの遊びと手の労働」『家庭科教育』，家政教育社，1975 年 5 月，pp.16-19
・「工作教育の確立—『労働の教育』を学校教育にどう取り入れるべきか」『現代教育科学』第 18 巻 6 号，明治図書，1975 年 6 月，pp.68-70
・「遠泳に挑戦／全員が完泳」『日本の民間教育』，民衆社，1975 年 7 月，pp.76-84
・「手工科図画科連絡問題の検討—工作教育確立のためにー」『技術教育研究』第 8 号，1975 年 8 月，pp.1-12
・「子どもの発達と労働の教育(3)　実際編(1)」『技術・家庭科資料』，実教出版，1975 年 11 月，pp.12-13
・「子どもの発達と労働の教育 43)　実際編(2)」『技術・家庭科資料』，実教出版，1975 年 12 月，pp.10-11

1976 年

・「工作の素材と道具」②『子どもの遊びと手の労働研究』第 29 号，1976 年 1 月，pp.1-6
・「工作の素材と道具」③『子どもの遊びと手の労働研究』第 31 号，1976 年 3 月，pp.13-16
・「机・椅子を学童保育の子どもたちへ—木材加工の集団製作—」『技術教育』第 284 号，国土社，1976 年 3 月，pp.17-23
・「理科的手工（手工と理科の連絡問題の検討）—工作教育確立のために—」『東京工大科学史集刊』:東京工業大学科学史･技術史懇話会，第 9 号，1976 年 4 月，pp.59-68
・「子どもの手が生み出すもの」『日本の学童保育』第 15 号，一声社，1976 年 10 月，pp.8-15
・「火をおこそう」『子どもの遊びと手の労働研究』第 40 号，1976 年 12 月，pp.11-12

1977 年

・『なんでも手づくり』富田博之監修『教室の文化活動』第 10 巻，日本標準，1977 年 4 月
・「新しい修学旅行をー労働実習を中心にした卒業旅行ー」『子どもの遊びと手の労働研究』第 46 号，1977

年 6 月，pp.1-13
・「小中学生の手の働きと意欲（全国調査から）」『教育の森』，毎日新聞社，1977 年 7 月，pp.47-53
・「卒業旅行に“生産労働実習”」『生活教育』第 345 号，草土文化，1977 年 9 月，pp.18-26
・「大正・昭和期に於ける手工教育の展開―手工科教授方法を中心に―」（道家達将と連名）『東京工業大学人文論叢』:東京工業大学，1977 年 12 月，pp.37-48

1978 年

・「手工科の成立過程」『世界教育史体系 32　技術教育史』（梅根悟監修），講談社，1978 年 3 月，pp.43-49
・「手工科教育の多様化」『世界教育史体系 32　技術教育史』（梅根悟監修），講談社，1978 年 3 月，pp.90-96
・「手工科の定着」『世界教育史体系 32　技術教育史　』（梅根悟監修），講談社，1978 年 3 月，pp.106-108
・「『図画工作科』工作の新指導要領と教材基準」『子どもの遊びと手の労働研究』第 60 号，1978 年 8 月，pp.10-14
・「男女全面共学の技術科の記録－和光中学校の 9 年間の実践－」『技術教室』第 313 号，民衆社，1978 年 8 月，pp.8-14
・「図画工作科の施設・設備」『教育』第 361 号，1978 年 9 月，pp.56-64
・「小学校高学年の工作学習」原正敏編『技術・家庭科　現代教育評価講座』第 6 巻，第一法規，1978 年 12 月，pp.304-310

1979 年

・「子どもを生かす遊び・労働」『家庭科教育』第 53 巻 6 号，家政教育社，1979 年 5 月，pp.42-45
・「切り出し小刀づくり見学記」『子どもの遊びと手の労働研究』第 70 号，1979 年 6 月，pp.14-18
・「岩波科学の本 13　中側鶴太郎『流れる固体』」『技術教育研究』第 16 号，1979 年 8 月，pp.58-59
・「序章 4　遊び･手の労働と教育課程」手労研編『子どもに遊びと手の労働のすばらしさを―1　児童期の実践―』，あすなろ書房，1979 年 9 月，pp.20-34
・「小学校上学年の工作教育」須藤敏昭編『身体/技術 日本の学力』第 8 巻，日本標準，1979 年 11 月，pp.350-369

1980 年

・『ぼくとナイフ』（『算数と理科の本』第 15 巻），岩波書店，1980 年 3 月
・「ソビエト教育視察の旅の概要」『子どもの遊びと手の労働研究』第 81 号，1980 年 5 月，pp.1-3
・「授業研究“丸太から板をつくる授業”―宮津実践をめぐって―」『子どもの遊びと手の労働研究』第 82 号，1980 年 6 月，pp.14-19
・「第 7 回手労研全国大会基調報告　遊びと手の労働のすばらしさを教えるために」『子どもの遊びと手の労働研究』第 83 号，1980 年 7 月，pp.1-8
・「座談研究：工作・手しごとの教育の現状と課題－子どもの要求に応えているだろうか－」（森下一期，古川日出夫，司会：横山裕），新しい絵の会編『美術の教室』第 8 号，1980 年 10 月，pp.6-18

1981 年

・「日鉄八幡製鉄所における技能教育に関する考察」『職業訓練大学校紀要』第 10 号 B，1981 年 3 月，pp.61-81
・「新任者研修のあり方について考える」『教材研究と授業づくり』（職業訓練大学校指導科），1981 年 6 月，pp.5-14
・「図工科　新学習指導要領と新教科書の分析」『子どもの遊びと手の労働研究』第 94 号，1981 年 6 月，pp.1-9
・「『ハンダ付けと熱容量』ができるまで」『教材研究と授業づくり』（職業訓練大学校指導科），1981 年 6 月，pp.34-55

・「第 8 回手労研全国大会基調報告　遊びと手の労働･技術のすばらしさを教えよう」『子どもの遊びと手の労働研究』，第 95 号，1981 年 7 月，pp.1-7
・「授業研究　のみのしくみと使用法の授業―和光中学校―」『技術と教育』第 143 号，1981 年 7 月，pp.5-12
・「宮津実践『つよいかたち』の授業の検討」『子どもの遊びと手の労働研究』第 96 号，1981 年 8 月，pp.12-13
・「遠泳に挑戦！全員が完泳－生徒が主体的に取り組む水泳合宿－」『子どもとつくる学校行事』（家元芳郎 向山玉雄編），民衆社，1981 年 9 月，pp.139-147
・「技術教育の内容･方法の創造と制度の検討―教科研全国大会分科会報告―」『教育』第 31 巻 13 号，1981 年 11 月，pp.100-106
・「手労研のあゆみ」『子どもの遊びと手の労働研究』第 100 号，1981 年 12 月，pp.2-6

1982 年

・「ソビエト－中等普通学校の労働総合技術教育」（長谷川雅康と共訳）『技術教育研究』第 21 号，1982 年 1 月，pp.67-78
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(1)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 106 号，1982 年 6 月，pp.9-16
・「第 9 回手労研全国大会基調報告　遊びと手の労働･技術のすばらしさを教えよう－内面にせまる実践を－」『子どもの遊びと手の労働研究』第 107 号，1982 年 7 月，pp.1-6
・「ハンダ付けをしようーおもちゃ，飾りもできますー」『子どもの遊びと手の労働研究』第 107 号，1982 年 7 月，pp.18-19
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(2)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 107 号，1982 年 7 月，pp.14-17
・「＜ソビエトの技術・職業教育＞　職業技術学校とその教育内容」『技術教育研究』第 22 号，1982 年 8 月，pp.38-48
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(3)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 108 号，1982 年 8 月，pp.12-15
・「卒業旅行を労働実習で」家元芳郎編『労働・生産行事』，あゆみ出版，1982 年 9 月，pp.162-189
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(4)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 109 号，1982 年 9 月，pp.14-17
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(5)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 110 号，1982 年 10 月，pp.8-11
・「新連載・道具のはなし・1　道具を見る目－道具の歴史を考えながらー」『美術の教室』第 17 号，1982 年 11 月，pp.51-55
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(6)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 111 号，1982 年 11 月，pp.12-17
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(7)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 112 号，1982 年 12 月，pp.16-19

1983 年

・「子どもに使わせるナイフは何がよいでしょうか」『子どもの遊びと手の労働研究』第 113 号，1983 年 1 月，pp.17
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(8)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 113 号，1983 年 1 月，pp.18-21
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(9)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 114 号，1983 年 2 月，pp.17-20
・「はんだ付けのおもしろさ」『技術と教育』，第 156 号，1983 年 3 月，pp.12-13

・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(10)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 115 号，1983 年 3 月，pp.19-22
・「指導員講座　技能の教え方-1　『技能を教えることを考える—技能教育の歴史をふり返りながら—』」『職業訓練』第 25 巻 4 号，労務労政研究所，1983 年 4 月，pp.46-49
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(11)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 116 号，1983 年 4 月，pp.12-15
・「指導員講座　技能の教え方-2　『何をどのような順序で教えるか』」『職業訓練』第 25 巻 5 号，労務労政研究所，1983 年 5 月，pp.46-49
・「木材加工」長谷川淳，原正敏，河野義顕編『たのしくできる中学校技術科の授業』，あゆみ出版，1983 年 5 月，pp.71-118
・「ソビエト　小・中学校の工作・技術教育(12)」（長谷川雅康と連名）『子どもの遊びと手の労働研究』第 117 号，1983 年 5 月，pp.15-18
・「中等普通学校の労働教育施設－学校共同教育生産コンビナートについての決定と規定－」（長谷川雅康との共訳）『技術教育研究』第 23 号，1983 年 5 月，pp.43-50
・「指導員講座　技能の教え方-3　『教材研究をすすめる(1)—教材と教材づくり—』」『職業訓練』第 25 巻 6 号，労務労政研究所，1983 年 6 月，pp.46-49
・「道具のはなし・3－ナイフの刃を調べる－そのしくみと材質」『美術の教室』第 19 号，駒草出版，1983 年 6 月，pp.64-67
・「指導員講座　技能の教え方-4　『教材研究をすすめる(2)—「作業分解」と「作業指導票」—』」『職業訓練』第 25 巻 7 号，労務労政研究所，1983 年 7 月，pp.47-50
・「火をおこしたいのですが」『子どもの遊びと手の労働研究』第 119 号，1983 年 7 月，pp.15-
・「指導員講座　技能の教え方-5　『教材研究から授業まで—はんだ付けの授業づくりを通して—』」『職業訓練』第 25 巻 8 号，労務労政研究所，1983 年 8 月，pp.47-50
・「道具のはなし・4（最終回）－道具を使う，教える」『美術の教室』第 20 号，駒草出版，1983 年 8 月，pp.56-59
・「指導員講座　技能の教え方-6　『技能教育と指導案』」『職業訓練』第 25 巻 9 号，労務労政研究所，1983 年 9 月，pp.48-50
・「指導員講座　技能の教え方-7　『指導案について考える(1)』」『職業訓練』第 25 巻 10 号，労務労政研究所，1983 年 10 月，pp.48-50
・「指導員講座　技能の教え方-8　『指導案について考える(2)—教授＝学習過程に目を向ける—』」『職業訓練』第 25 巻 11 号，労務労政研究所，1983 年 11 月，pp.50-52
・「指導員講座　技能の教え方-9　『指導案について考える(3)—記入事項と形式—』」『職業訓練』第 25 巻 12 号，労務労政研究所，1983 年 12 月，pp.54-55

1984 年

・「指導員講座　技能の教え方 10　『指導案について考える(4)—指導案をめぐる諸問題①—』」『職業訓練』第 26 巻 1 号，労務労政研究所，1984 年 1 月，pp.41-42
・「指導員講座　技能の教え方 11　『指導案について考える(5)—指導案をめぐる諸問題②—』」『職業訓練』第 26 巻 2 号，労務労政研究所，1984 年 2 月，pp.48-50
・「《ロシヤ法》創始の背景とその内容についての考察」『職業訓練大学校紀要』第 13 号 B，1984 年 3 月，pp.5-23
・「指導員講座　技能の教え方最終回　『技能指導の諸問題』」『職業訓練』26 巻 3 号，労務労政研究所，1984 年 3 月，pp.47-50
・「エス･ヤー・バトゥィシェフ著：職業技術教育の教授法－生徒の労働訓練・理論と教授法の諸問題－」『指導課報告シリーズ』（職業訓練大学校指導科）第 3 号，1984 年 3 月，pp.1-106
・「労働教育，職業技術教育の改革」（ソビエト）『日ソ経済調査資料』:日ソ経済調査室，第 629 号，1984 年 4 月，pp.11-18

・「普通教育学校ならびに職業学校の改革の基本方向」『日ソ経済調査資料』:日ソ経済調査室，第 629 号，1984 年 4 月，pp.19-38
・「大切にされる手づくり，本格的な木工作」『子どもの遊びと手の労働研究』第 129 号，1984 年 5 月，pp.10-11
・「「ソビエトの教育改革－労働教育の充実－」（付：翻訳「ソ連邦共産党中央委員会及びソ連邦閣僚会議決定《生徒の労働訓育，労働教授及び職業指導と，彼らの社会的有用・生産的労働の組織とその改善について》」『子どもの遊びと手の労働研究』第 134 号，1984 年 6 月，pp.9-13
・「工作・技術教育における印刷教材－①－授業書を考えるために－」『子どもの遊びと手の労働研究』第 130 号，1984 年 6 月，pp.15-16
・「アイヴィダル小学校訪問－手労研ヨーロッパ視察旅行報告書－」『ヨーロッパの遊び･教育･手の労働』，1984 年 6 月，pp.20-23
・「スロイドを見る スウェーデンの工作教育－手労研ヨーロッパ視察旅行報告書」『ヨーロッパの遊び･教育･手の労働』，1984 年 6 月，pp.42-47
・「技能の習得を考える－楽しい授業とするために－」『技術教室』第 385 号，1984 年 8 月，pp.4-8
・「ソビエトにおける教育制度改革の動向－『普通教育学校ならびに職業学校の改革の基本的方向』について」（長谷川雅康と共訳）『技術教育研究』第 25 号，1984 年 8 月，pp.55-62

1985 年

・「はじめに」手労研編『手をつかおう　ものをつくろう－楽しい手の労働の教材研究－Ⅰ章工作教育の教材研究と展開』，あすなろ書房，1985 年 1 月，pp.8-15
・「ナイフを使おう」手労研編『手をつかおう　ものをつくろう－楽しい手の労働の教材研究－Ⅰ章工作教育の教材研究と展開』，あすなろ書房，1985 年 1 月，pp.24-33
・「道具のはなし」手労研編『手をつかおう　ものをつくろう－楽しい手の労働の教材研究－Ⅰ章工作教育の教材研究と展開』，あすなろ書房，1985 年 1 月，pp.44-57
・「手と箸」『食べもの通信』（家庭栄養研究会）第 166 号，1985 年 1 月，pp.14-15
・「ソビエトにおける職業技術教育の改革」『技術教育研究』第 26 号，1985 年 5 月，pp.8-14
・「鈴木さんの報告（小学校 4 年生の木材加工）に寄せて」『技術教育研究』第 26 号，1985 年 5 月，pp.53-54
・「工作教育の課題を考える」『子どもの遊びと手の労働研究』第 142 号，1985 年 6 月，pp.1-6
・「技術･職業教育をめぐる当面の課題－小学校の工作教育」『技術と教育』第 175 号，1985 年 7 月，pp.3
・「工作教育の課題を深める－人間的な感性を育む工作教育の創造のため－」『美術の教室』第 27 号，駒草出版，1985 年 7 月，pp.6-11
・（部分執筆）『日本・世界学習人名辞典』，日本標準，1985 年 11 月
・「図画工作科の成立経過について」『名古屋大学教育学部紀要-教育学科-』第 32 巻，1985 年 12 月，pp.231-251
・「金きりばさみ」『子どもの遊びと手の労働研究』第 148 号，1985 年 12 月，p.15

1986 年

・「ソビエト　普通教育学校の労働教育，職業教育の動向」『技術教育研究』第 27 号，1986 年 1 月，pp.51-56
・「きり」『子どもの遊びと手の労働研究』第 149 号，1986 年 1 月，p.12
・「サンドペーパー」『子どもの遊びと手の労働研究』第 150 号，1986 年 2 月，p.21
・「ヤスリ」『子どもの遊びと手の労働研究』第 151 号，1986 年 3 月，p.14
・「子どもの手が危ない―技能を考える―」『研修紀要』（日本理容美容教育センター），1986 年 4 月，pp.19-24
・「釘抜き」『子どもの遊びと手の労働研究』第 152 号，1986 年 4 月，p.15
・「マイクロ･エレクトロニクス技術の進歩をめぐって－ファミコンブームを考えるにあたって－」『子どもの遊びと手の労働研究』第 153 号，1986 年 5 月，pp.12-13
・「工作教育 100 年　―工作（手工）教育の歴史を通して考える―」『子どもの遊びと手の労働研究』第 154 号，1986 年 6 月，pp.1-3

・「材料の固定」『子どもの遊びと手の労働研究』第 155 号，1986 年 7 月，p.14
・「子どもの手の働きと意欲の調査（森下一期，須藤敏昭，中村源哉，成田寛，山中泰子）」『技術教育学研究』（名古屋大学教育学部技術教育学研究室）第 3 号，1986 年 9 月，pp.1-47
・「材料の固定②」『子どもの遊びと手の労働研究』第 157 号，1986 年 9 月，p.16
・「自由研究のし方」『子どものゆたかな文化活動』，あゆみ出版，1986 年 10 月，pp.162-182
・「手工（工作）教育 100 年の歴史をふまえて今日の課題を考える—石川県における導入期手工科から—」『手しごと・工作教育と子どもの発達を考える』（手しごと・工作教育と子どもの発達を考える会編），1986 年 11 月，pp.10-13
・「導入期の手工科に関する一考察—手工教育 100 年によせて—」『名古屋大学教育学部紀要-教育学科-』第 33 巻，1986 年 12 月，pp.279-294
・「工作教育の課題と内容—手工（工作）教育 100 年にあたって—」『子どもの遊びと手の労働研究』第 160 号，1986 年 12 月，pp.2-5

1987 年

・「ソビエトの技術教育，職業教育の改革とその展開」『技術教育研究』第 29 号，1987 年 1 月，pp.50-60
・「コンピュータの社会的意義を考えるために」『技術と教育』第 191 号，1987 年 7 月，pp.14-16
・「ソビエトにおける情報技術教育に関するプログラムー中学 2・3 年の『電子計算機技術』（選択）ー」『技術教育研究』第 29 号，1987 年 7 月，pp.65-71
・「ソビエトにおける情報技術教育に関するプログラムー中学 2・3 年の電気計算機技術（選択）ー」（翻訳）『技術教育研究』第 30 号，1987 年 7 月，pp.65-71
・「手労研と中学校の手の労働の実践」『子どもの遊びと手の労働研究』第 169 号，1987 年 9 月，pp.2-4
・「肥大する教育産業」『名古屋大学放送公開講座ラジオー転換期の教育を考える』，1987 年 9 月，pp.103-112
・「児童ののこぎり使用技能に関する調査—道具使用技能の発達に関する実証的研究 1—」（木村誠と連名）『技術教育学研究』第 4 号，1987 年 11 月，pp.79-117
・「児童ののこぎり使用技能に関する調査」（木村誠と共著）『子どもの遊びと手の労働研究』第 171 号，1987 年 11 月，pp.11-15
・「コンピュータ時代の工作教育」『コンピュータ時代子どもの発達』，大月書店，1987 年 11 月，pp.126-143
・「明治中期における手工教授法に関する一考察—教材の選択，配列を中心に—」『名古屋大学教育学部紀要-教育学科-』第 34 巻，1987 年 12 月，pp.245-257

1988 年

・「児童の工作技能・生活技能の発達に関する実証的研究」『昭和 61～62 年度科学研究費補助金（一般研究 B）研究成果報告書』（研究代表者：森下一期）1988 年 3 月，pp.1-125
・「二 新教育理論の人間観的基礎：　六 技能について」長尾十三二編『世界新教育運動選書別巻 2－新教育運動の理論』，1988 年 4 月，pp.225-239
・「ナイフを子どもたちのものに——鉛筆削りの調査から——」『子どもの遊びと手の労働研究』第 177 号，1988 年 5 月，pp.10-14
・「ナイフをめぐって考える」『技術と教育』第 293 号，1988 年 5 月，pp.7-9
・「砂鉄から鉄をつくろう」『子どもの遊びと手の労働研究』第 177 号，1988 年 5 月，pp.15-18
・「砂鉄から鉄をつくろう」『遊びと手の労働の教材ブックレット第 1 集』第 7 号，1988 年 8 月，pp.1-12
・「手の労働」『現代教育学事典』（青木一ら編），労働旬報社，1988 年 10 月，pp.562
・「職業訓練校」『現代教育学事典』（青木一ら編），労働旬報社，1988 年 10 月，pp.436
・「企業内教育」『現代教育学事典』(青木一ら編)，労働旬報社，1988 年 10 月，pp.135-136
・「普通教育における職業教育に関する一考察—1911(M44)年小学校令改正後の高等小学校の実業科を中心に—」『名古屋大学教育学部紀要-教育学科-』第 35 巻，1988 年 12 月，pp.225-249

1989 年

・「学習指導要領改訂と工作教育」『技術教育研究』第 33 号，1989 年 3 月，pp.1-9
・「参加と共同による学校づくり―イメージの構築のために―」『研究紀要』（和光中学校研究部），1989 年 3 月，pp.1-5
・「工作重視は本物か――学習指導要領図画工作科編の検討――」『子どもの遊びと手の労働研究』第 189 号，1989 年 5 月，pp.2-5
・「第 16 回手労研全国大会基調報告　遊びと手の労働･技術のすばらしさをひろげよう」『子どもの遊びと手の労働研究』第 191 号，1989 年 7 月，pp.2-6
・「紙工作の基本」手労研編『手づくりひろば 1　紙でつくろう　粘土でつくろう』，ミネルヴァ書房，1989 年 8 月，pp.3-8
・「段ボールでつくる」手労研編『手づくりひろば 1　紙でつくろう　粘土でつくろう』，ミネルヴァ書房，1989 年 8 月，pp.65-68
・「粘土をつくる」手労研編『手づくりひろば 1　紙でつくろう　粘土でつくろう』，ミネルヴァ書房，1989 年 8 月，pp.75-78
・「紙と粘土はもっとも身近な素材」手労研編『手づくりひろば 1　紙でつくろう　粘土でつくろう』，ミネルヴァ書房，1989 年 8 月，pp.105-111
・「手の労働の教育と子どもの生活」手労研編『手づくりひろば 1　紙でつくろう　粘土でつくろう』，ミネルヴァ書房，1989 年 8 月，pp.113-122
・「高等小学校における[選択制]に関する一考察」『名古屋大学教育学部紀要-教育学科-』第 36 巻，1989 年 12 月，pp.289-304

1990 年

・「第 2 章　ソビエト」刊行会編『技術科教育実践講座 : 技術科教育の歴史と展望』第 14 号，1990 年，pp.75-95
・「子ども時代の私と遊び・手の労働　部室づくりと生徒自治」『子どもの遊びと手の労働研究』第 197 号，1990 年 1 月，pp.19
・「技能教授の再検討―技能とその”わかち伝えられるもの”オペレーション法の再評価―」『技術教育研究』第 35 号，1990 年 2 月，pp.1-19
・「創立 30 周年を記念してー技教研の課題として思うこと」『技術と教育』第 212 号，1990 年 3 月，pp.3-6
・「手工科教員養成における東京工業学校の役割」『技術教育学研究』第 6 号，1990 年 3 月，pp.39-54
・「第 4 章 技術科教育の方法」佐々木・田中ら編『新版　技術科教育法』，学文社，1990 年 3 月，pp.35-51
・「第 5 章　欧米における技術科教育 5.ソビエト連邦」佐々木、田中ら編『新版　技術科教育法』，学文社，1990 年 3 月，pp.71-77
・「100 号から 200 号への歩み」『子どもの遊びと手の労働研究』第 200 号，1990 年 4 月，pp.2-4
・「座談会　200 号をふり返り手労研の課題を考える」『子どもの遊びと手の労働研究』第 200 号，1990 年 4 月，pp.5-15
・「現代の若者と『働く』意識をめぐって」『子どもの遊びと手の労働研究』第 201 号，1990 年 5 月，pp.14-16
・「子どもがモノにふれあうことができる工作教育をつくっていこう」『美術の教室』第 47-48 号，1990 年 6 月，pp.24-28
・「高校生とアルバイト――高校 1 年生の調査（41 名）から――」『子どもの遊びと手の労働研究』第 205 号，1990 年 9 月，pp.13-16

1991 年

・「職業や労働，技術に対する高校生の関心」『子どもの遊びと手の労働研究』第 211 号，1991 年 3 月，pp.12-16
・「いま，木がおもしろい」『手づくりひろば 3　木でつくろう　金属を使おう』，ミネルヴァ書房，1991 年

10 月，pp.3-8
・「ナイフをじょうずに使う」『手づくりひろば 4　木でつくろう　金属を使おう』，ミネルヴァ書房，1991 年 10 月，pp.9-12
・「丸太でつくる」『手づくりひろば 5　木でつくろう　金属を使おう』，ミネルヴァ書房，1991 年 10 月，pp.55-58
・「ナイフをつくる」『手づくりひろば 6　木でつくろう　金属を使おう』，ミネルヴァ書房，1991 年 10 月，pp.83-86
・「金属をくっつける」『手づくりひろば 7　木でつくろう　金属を使おう』，ミネルヴァ書房，1991 年 10 月，pp.87-90
・「砂鉄から鉄をつくる」『手づくりひろば 8　木でつくろう　金属を使おう』，ミネルヴァ書房，1991 年 10 月，pp.95-100
・「手・道具を通して自然との対話を」『手づくりひろば 9　木でつくろう　金属を使おう』，ミネルヴァ書房，1991 年 10 月，pp.103-108
・「『現代社会と技術』　野麦峠とトヨタ・東芝」『和光学園報』:和光学園，第 154 号，1991 年 11 月，pp.11-12
・「『現代社会と技術』の授業—高等学校普通科における技術に関する選択科目—」『教育』，第 41 巻 12 号，1991 年 11 月，pp.34-39

1992 年

・「野麦峠とトヨタ自動車・東芝のコンピュータ—高校生は諏訪湖畔の製紙工場で何を考えるか—」『子どもの遊びと手の労働研究』第 226 号，1992 年 6 月，pp.9-14

1993 年

・「『自然』に向ける高校生たちの目」『子どもの遊びと手の労働研究』第 237 号，1993 年 5 月，pp.14-17
・「くんせいをつくる」『手づくりひろば 6　食べ物をつくろう　動物を育てよう』，ミネルヴァ書房，1993 年 8 月，pp.41-44
・「技能」奥田・河野監修『現代学校教育大事典』第 2 巻，ぎょうせい，1993 年 8 月，pp.113-114
・「技能教育」奥田・河野監修『現代学校教育大事典』第 2 巻，ぎょうせい，1993 年 8 月，pp.114-115
・「技能教科」奥田・河野監修『現代学校教育大事典』第 2 巻，ぎょうせい，1993 年 8 月，pp.115-116
・「トーク＆トーク『子ども・教育と手労研‥‥この 20 年』①『子どもの遊びと手の労働研究』第 242 号，1993 年 10 月，pp.2-7
・「トーク＆トーク『子ども・教育と手労研‥‥この 21 年』①『子どもの遊びと手の労働研究』第 243 号，1993 年 11 月，pp.14-25
・「教育における学習指導案作成の意義」『看護展望』第 18 巻 13 号，メディカルフレンド社，1993 年 12 月，pp.18-21
・「五日制は生徒とともに－1993 年度教育研究全国集会特設分科会学校五日制問題レポート」『東京私教連レポート』，1993 年 12 月，pp.1-59
・「現代社会と技術　野麦峠を歩いて考える——高校生の見た日本の近代化と現代の労働——」　『高校生のフィールドワーク学習』，星林社，1993 年 12 月，pp.254-283

1994 年

・「留年生問題を考えるにあたって—原級留置問題—」『和光高校　‘94 カリキュラム・進級制度—検討経過の報告—』（和光高校教育課程等検討委員会），1994 年 2 月，pp.1-17
・「和光高等学校　学校五日制は生徒とともに」『和光学園報』第 183 号，1994 年 2 月，pp.5-8
・「和光高校の総合学習」『和光高校の教科実践 10　授業で生徒は何を学んだかⅤ-』:和光高等学校，第 15 号，

1994 年 3 月，pp.1-32
・「とらない自由のある自由選択制を―和光高校の'94 カリキュラムと進級制度―」『月刊ホームルーム』，学事出版，1994 年 3 月，pp.4-10
・「私にとって器用とは」『子どもの遊びと手の労働研究』第 250 号，1994 年 6 月，pp.6-7
・「学校五日制は生徒と共に」『和光高校の教育』（和光高等学校研究部），1994 年 6 月，pp.3-23
・「金子章弘氏（日本 IBM）に聞くーあらためて人間の知性を問う―新情報機器の活用に及んで」『和光学園報』第 187 号，1994 年 6 月，pp.2-9
・「高校生に職業･労働を考える場を―高校普通科の『現代社会と技術』の授業ー」『技術教育研究』第 44 号，1994 年 8 月，pp.11-23
・「ハーモニカをつくろう[音階の話]」『手づくりひろば 5　音･光で遊ぼう　電気を知ろう』，ミネルヴァ書房，1994 年 8 月，pp.3-6
・「虹をつくろう」『手づくりひろば 5　音･光で遊ぼう　電気を知ろう』，ミネルヴァ書房，1994 年 8 月，pp.63-66,
・「望遠鏡をつくろう」『手づくりひろば 5　音･光で遊ぼう　電気を知ろう』，ミネルヴァ書房，1994 年 8 月，pp.75-78
・「自然の現象は不思議―音や光，電気の工作を楽しみ科学への接近を」『手づくりひろば 5　音･光で遊ぼう　電気を知ろう』，ミネルヴァ書房，1994 年 8 月，pp.103-108
・「図画工作科と工作教育」『手づくりひろば 5　音･光で遊ぼう　電気を知ろう』，ミネルヴァ書房，1994 年 8 月，pp.109-116
・「高校 2 年生が仕事を考える」『子どもの遊びと手の労働研究』第 252 号，1994 年 8 月，pp.6-11
・「お別れの言葉」東正彦先生追悼文集『はるかなる友へ』（和光中学校研究部），1994 年 12 月，pp.15-16

1995 年

・「長谷川先生のご逝去を悼む」『子どもの遊びと手の労働研究』第 257 号，1995 年 1 月，p.18
・「１．中高生をどうとらえればよいか/２．中高統一した学校像を描くことは可能か/３．完全五日制へ向けての準備/４．授業改革の課題―遠山啓「術・学・観」に学ぶ―/５．学校づくりへの生徒の参加―学校共同体考―」『私家版　現代の中学・高校の教育を考えるー1995 年度　新年度を迎えるにあたって』，1995 年 4 月，pp.75-85
・「私が大切にしていること―中学時代そして今―」『和光』，第 74 号，1995 年 5 月，pp.15
・「高校生は仕事や職業の専門的な学習を求めている」『子どもの遊びと手の労働研究』第 264 号，1995 年 8 月，pp.10-13
・「教育課程の改革③　座談会　新情報機器の活用を」『和光学園報』第 202 号，1995 年 8 月，pp.2-12
・「高校生に職業･労働を考える場を―高校普通科のカリキュラム再考：「現代社会と技術」の授業を通して―」『和光高校の教育』（和光高等学校研究部），1995 年 9 月，pp.24-40
・「『和光高校の教育'94 年』刊行にあたって」『和光高校の教育』，1995 年 9 月，pp.1-2
・「労働と職業の教育の可能性」『講座　高校教育改革 2　学びの復権―授業改革』，労働旬報社，1995 年 10 月，pp.153-172

1996 年

・「和光高校の新しい試み―専門教育科目の選択枠設置―」『和光学園報』第 210 号，1996 年 3 月，pp.10-12
・「１．中等教育の問題と和光中高の教育改革をめぐって―経済同友会「合校」構想批判―/２．教育改革の具体的展開をめぐって―生徒・父母の参加による学校づくりー/３．生徒指導をめぐって・私的グループについて・いじめ問題をめぐって・不登校の問題」『私家版　現代の中学・高校の教育を考えるー1996 年度　新年度を迎えるにあたって』，1996 年 4 月，pp.78-86
・「入試制度の改革に踏み込んだ 1995 年度」『和光高校の教育』，1996 年 6 月，pp.1-2

・「青年の『学び』の場を求めて―高校生に職業や専門の学習を保障しよう―」『子どもの遊びと手の労働研究』第 276 号，1996 年 8 月，pp.5-8
・「和光高校の教育改革」『教育』第 46 巻 8 号，1996 年 8 月，pp.52-63
・「特集＝和光民主教育を問う　座談会「現代における教育の基礎･基本とは」」『和光学園報』:第 215 号，1996 年 8 月，pp.2-12

1997 年

・「中教審第一次答申学校五日制」『子どもの遊びと手の労働研究』第 281 号，1997 年 1 月，pp.3-6
・「特集＝「21 世紀の学校ヴィジョン」　座談会「マルチメディア時代の学校」」『和光学園報』第 231 号，1997 年 1 月，pp.2-12
・「学校づくりへの父母参加の取り組み―完全学校五日制の和光中学校 97 年教育課程づくりの中で―」『研究紀要』（和光中学校研究部），1997 年 3 月，pp.1-7
・「１．中等教育の課題Ⅰ―中高一貫教育にかかわって―/２．中等教育の課題Ⅱ　―生徒・父母の学校参加論―・生徒参加の実際・父母との協議」『私家版　現代の中学・高校の教育を考える－1997 年度　新年度を迎えるにあたって』，1997 年 4 月，pp.60-68
・「1994 年カリキュラムの完成年度にあたって―和光高校のめざす教育―」『和光高校の教育』，1997 年 8 月，pp.1-2
・「和光学園における中高一貫教育」『わが子は中学生』第 235 号，あゆみ出版，1997 年 10 月，pp.28-34
・「手労研今昔物語　会報 300 号に寄せて」『子どもの遊びと手の労働研究』第 291 号，1997 年 11 月，pp.16-17

1998 年

・「カリキュラム改革のなかで総合学習をとらえなおす」『高校のひろば』第 27 号，旬報社，1998 年 3 月，pp.26-32
・「１．教課審の中間まとめをめぐって―共通学習をどう考えるか―/２．生徒の生活　―消費社会に関わって―/３．生徒の学校づくりへの参加をめぐって―諏訪哲二『管理教育のすすめ』批判―/４．発達の論理と生成の論理―「進歩」「発達」再考―」『私家版　現代の中学・高校の教育を考える－1998 年度　新年度を迎えるにあたって』，1998 年 4 月，pp.80-87
・「座談会　子どもの現在とカリキュラムづくり」『人間と教育』第 18 号，旬報社，1998 年 6 月，pp.84-98
・「会報 300 号によせて―手労研と私―」『子どもの遊びと手の労働研究』第 300 号，1998 年 8 月，pp.7-9
・「特集＝「22 世紀の学校ヴィジョン」　座談会「二十一世紀の教育改革，展望を語る」」『和光学園報』第 242 号，1998 年 10 月，pp.2-12

1999 年

・「手労研のこれまでとこれから―会報 300 号発行にあたって考える―」『子どもの遊びと手の労働研究』第 308 号，1999 年 4 月，pp.17-19
・「１．生徒をとらえる観点に関わって―宮台　真司の論に触れて―/２．学校論に関わって―「在学契約説」の提起―/３．総合学習について―佐伯ゆたか　学校の「脱・学校化」に学ぶ―/４．二〇〇二年に向けての教育改革の展開」『私家版　現代の中学・高校の教育を考える－1999 年度　新年度を迎えるにあたって』，1999 年 4 月
・「新学習指導要領に見る普通教育としての『職業教育』－和光中学校の農業体験学習から－『技術教室』第 564 号，1999 年 7 月，pp.10-15
・「定時制高校の推移を見て」『和光高校の教育』，1999 年 12 月，pp.1-2
・「斉藤茂男著『生命かがやく日のために』に思う」『和光高校の教育』，1999 年 12 月，pp.1-2
・「お世話になり続けた不連続の三十五年」（勤続 10 年）『和光学園報』第 257 号，1999 年 12 月，pp.7-9

2000 年

- 「1 章 1 中学生が求める学びをつくりだす」森下・田中編『中学生の学びと総合学習－和光中学校の計画と実践』，旬報社，2000 年 2 月，pp.10-19
- 「6 章 和光中学校の完全五日制と教育課程」森下・田中編『中学生の学びと総合学習－和光中学校の計画と実践』，旬報社，2000 年 2 月，pp.196-205
- 「三者協議会へ向けての歩み」『研究紀要』（和光中学校研究部），2000 年 3 月，pp.1-4
- 「１．学校づくりにかかわる課題―自由教育の原則，何が協議の対象になるか―／２．教師と生徒の関係―ベースとなる学校の枠組み―／３．参加の意味を深めたい　―竹内常一『学校の条件学校を参加と学習と自治の場に』に学ぶ―／４．子ども理解にかかわって―親たちの思秋期危機―」『私家版　現代の中学・高校の教育を考える－2000 年度　新年度を迎えるにあたって』，2000 年 4 月，pp.46-53
- 「はじめに」森下一期編『高校生の総合学習と学び―和光高校の実践』，晩聲社，2000 年 5 月，pp.3-5
- 「和光高校の総合学習と教育課程」森下一期編『高校生の総合学習と学び―和光高校の実践』，晩聲社，2000 年 5 月，pp.181-192
- 「特集＝私たちの教育改革　連載①－和光での教育改革がめざすもの」『和光学園報』第 262 号，2000 年 5 月，pp.2-11
- 「『ほっとできる』とき，『あったかい気持ち』になるとき」『子どもの遊びと手の労働研究』第 323 号，2000 年 7 月，pp.13-16
- 「Ⅳ学ぶことの意味を問う－森下一期実践をめぐって－」『「17 歳」に何が起こっているのか』，旬報社，2000 年 8 月，pp.92-117
- 「特集＝私たちの教育改革　連載⑤－高等学校・共通教養と選択コース」『和光学園報』第 266 号，2000 年 9 月，pp.2-11
- 「第 27 回全国大会　記念トーク　「紡ぐ心を今も」」『子どもの遊びと手の労働研究』第 326 号，2000 年 10 月，pp.2-14

2001 年

- 「館山合宿五十周年に思う」『和光学園報』第 270 号，2001 年 1 月，pp.4-5
- 「専門・職業指導」日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム事典』，ぎょうせい，2001 年 2 月，pp.294-295
- 「男女共習」日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム事典』，ぎょうせい，2001 年 2 月，pp.295-296
- 「定時制高等学校」日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム事典』，ぎょうせい，2001 年 2 月，pp.334
- 「子どもと大人　私たち手労研の課題「最近こんなことを考えました」」『子どもの遊びと手の労働研究』第 330 号，2001 年 2 月，pp.16
- 「わたしのこころに残るこの一品・4　「部室を建てた―高校 2 年生のときに―」『子どもの遊びと手の労働研究』第 330 号，2001 年 2 月，pp.2-3
- 「『三者連絡協議会』をめぐるいくつかの論点」『研究紀要』（和光中学校研究部），2001 年 3 月，pp.1-6
- 「１．教育の崩壊ではない―「権威によるコントロール」の崩壊（村上　龍）―／２．家族の問題にかかわって―「治療モデル」から「被害者救済モデルへ」―／３．二〇〇二年に向けての教育改革協議の具体的展開」『私家版　現代の中学・高校の教育を考える－2001 年度　新年度を迎えるにあたって』，2001 年 4 月，pp.48-56
- 「手労研と IT 革命」『子どもの遊びと手の労働研究』第 335 号，2001 年 7 月，pp.11-14
- 「新体育館・プールの建設」『和光学園報』第 279 号，2001 年 10 月，pp.3-6

2002 年

- 「これからの和光中学校を考えるにあたって」『研究紀要』（和光中学校研究部），2002 年 3 月，pp.1-5
- 「１．学校づくりにかかわる課題・高校親和会とのカリキュラムをめぐる論議―習熟度別授業をめぐって―・

進級にかかわる特別面接の中で/２．子どもの権利と意見表明権　―福田雅昭「あらためて子どもの権利の本質を問う」に学ぶ―」『私家版　現代の中学・高校の教育を考える－2002 年度　新年度を迎えるにあたって』，2002 年 4 月，pp.40-45
・「働く－高校生のアルバイト－」『子どもの遊びと手の労働研究』第 345 号，2002 年 5 月，pp.6-11
・「現代の子どもたちにとっての工作教育を考える」『子どもの遊びと手の労働研究』第 352 号，2002 年 10 月，pp.16-18
・「生徒とともに学校をつくる」『和光学園報』（69 周年誌），2002 年 11 月，pp.9-10
・「現代の子どもたちにとっての工作教育を考える」『子どもの遊びと手の労働研究』第 352 号，2002 年 12 月，pp.16-18

2003 年

・「『教育―人間―生命』に思う」『研究紀要』（和光中学校研究部），2003 年 3 月，pp.1-5
・「宮津工作教育の教材観」『子どもとともにつくる喜びを－宮津濃③の工作・技術教育の世界－』，2003 年 4 月，pp.222-224
・「１．教育基本法の改悪―新しい「公共」批判―/２．教育基本法の精神で学校制度のとらえ直しを/３．学校づくりの前進―「参加」は教育のベースである「相互信頼」を築く―」『私家版　現代の中学・高校の教育を考える－2003 年度　新年度を迎えるにあたって』，2003 年 4 月，pp.38-43
・「宮津　濃先生とのお別れの会　第一部開会挨拶」『子どもとともにつくる喜びを－宮津濃③の工作・技術教育の世界－』，2003 年 4 月，pp.3-5
・「和光高校の職業・技術に関する教育－高 2 選択科目「現代社会と技術」の 13 年，青年が職業に対峙するとき－」『技術・職業教育学研究室　研究報告』:名古屋大学教育学部技術教育学研究室，第 1 号，2003 年 8 月，pp.2-13
・「手労研と私の 30 年の断片」『子どもの遊びと手の労働研究』第 360 号，2003 年 8 月，pp.5
・「学校づくりの新たな展開―生徒･父母の学校づくりへの参加」『和光学園七十年誌』, 2003 年 11 月, pp.273-280
・「これからの十年」『和光学園報』（70 周年誌），2003 年 11 月，pp.9-10
・「座談会　これからの和光―生きるみち」『和光学園七十年誌』，2003 年 11 月，pp.312-322

2004 年

・「スローであること（評議員 10 年）」『和光学園報』第 295 号，2004 年 1 月，pp.4-6
・「高校側から見た高大連携　経過」『高校－大学連携の試み　「心の時代」を考える』，和光大学人間関係学部人間発達学科，2004 年 3 月，pp.14-15
・「遊びを仕掛ける―中高生へ仕掛ける『あそび』とは何だろうか―」『子どもの遊びと手の労働研究』第 368 号，2004 年 4 月，pp.15-18
・「ニート，フリーター問題に向き合う」『子どもの遊びと手の労働研究』第 392 号，2004 年 4 月，pp.2-6
・「１．東京都に見る行政の改悪と私立学校/２．学校を批評空間に―小玉重夫『シチズンシップの教育思想』に学ぶ―」『私家版　現代の中学・高校の教育を考える－2004 年度 新年度を迎えるにあたって』，2004 年 4 月，pp.35-40
・「学校協議会・三者連絡協議会の充実・発展を―生徒は学校づくりの主人公―」『和光学園報』（71 周年誌），2004 年 11 月，pp.9-10

2005 年

・「遊びはだいじだよ！№4－熱中する遊び」『子どもの遊びと手の労働研究』第 378 号，2005 年 2 月，pp.19
・「学園としての広報活動」『和光学園報』，第 303 号，2005 年 4 月，pp.2-3
・「加藤邦興君の早すぎる逝去を悼む」『技術と社会－或る科学者の半生 ～追悼 加藤邦興～』，2005 年 10

月，pp.116-117

2006 年

・「現代の手労研の課題を考える」『子どもの遊びと手の労働研究』第 391 号，2006 年 3 月，pp.3-13
・「ニート，フリーター問題に向き合う」『子どもの遊びと手の労働研究』第 392 号，2006 年 4 月，pp.2-5
・「渡邉　晶　著『大工道具の日本史』」『技術教育研究』第 65 号，2006 年 7 月，pp.67-69

2007 年

・「日本の工作教育を創った人々」『子どもの遊びと手の労働研究』第 404 号，2007 年 4 月，pp.6-10
・「1 章 2　手労研が追求してきたもの」手労研編『子どもの手を育てるー手ごたえのある遊び・学び･生活を！』，ミネルヴァ書房，2007 年 8 月，pp.6-13
・「3 節　いま，子どもの『手』を遊び・生活・学びの中でどう育てるか」手労研編『子どもの手を育てるー手ごたえのある遊び・学び･生活を！』，ミネルヴァ書房，2007 年 8 月，pp.14-20
・「松本実践についてー学ぶ側の論理への転換（3 章コメント）」手労研編『子どもの手を育てるー手ごたえのある遊び・学び･生活を！』，ミネルヴァ書房，2007 年 8 月，pp.52-53
・「旧版『製図（基礎編）』テキスト(B5 版　一角法）の編集の思い出」『技術教育研究別冊 3　製図学習これまで･いま・これから』，2007 年 8 月，pp.86-88

2008 年

・「普通高校での職業に関する教育　和光高校の実践から」太田・工藤編『学ぶ働くつながる』（日高教・高校教育研究委員会），かもがわ出版，2008 年 2 月，pp.62-70
・「まともな工作がますます消えていくおそれがあるー小学校図画工作科学習指導要領の改訂をめぐってー」『子どもの遊びと手の労働研究』第 418 号，2008 年 6 月，pp.6-9
・「于　潤琦（ｳ　ｼﾞｮﾝｷ）著『北京　路地裏エンターテイメント』岩崎　菜子訳（2008 年 8 月　毎日新聞社刊）」『子どもの遊びと手の労働研究』第 423 号，2008 年 11 月，pp.18

2009 年

・「立体回転万華」『遊びと手の労働の教材ブックレット第 3 集』第 2 号，2009 年 8 月，pp.1-7
・「木の車づくりを楽しもうー板を貼り合わせて作るー」『遊びと手の労働の教材ブックレット第 3 集』，第 3 号，2009 年 8 月，pp.1-8

2010 年

・「技教研 50 周年記念　技術教育・教育に 40 年間関わってきての断想」『技術教育研究会 50 周年記念誌』，2010 年 1 月，pp.25-27
・「『ものづくり道場』ができた」『子どもの遊びと手の労働研究』第 428 号，2010 年 6 月，pp.3-6